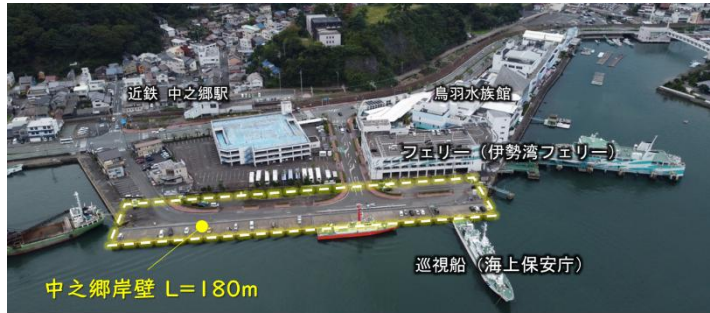


第 7 2 7 回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 鳥羽港（中之郷岸壁）港湾改修事業〔三重県〕

…………… 三重県鳥羽市

- ・鳥羽港中之郷岸壁は、三重県の地域防災計画に防災拠点として位置づけられており、大規模地震発生時に緊急物資や避難者等を輸送するための耐震強化岸壁である。
- ・一方、当岸壁は築造から 30 年以上が経過し、老朽化が進行するとともに耐震性能の不足が確認されているため、老朽化への対応と耐震性能向上を目的として、岸壁の改修工事を行っている。



2 一般国道 23 号伊勢南電線共同溝事業〔中部地整〕

…………… 三重県伊勢市

- ・伊勢南電線共同溝事業は、愛知県豊橋市を起点、三重県伊勢市を終点とする一般国道 23 号の終点部（伊勢市宇治浦田一丁目地先～伊勢市宇治今在家町地先）において、無電柱化の推進を目的とした事業である。
- ・本事業箇所は、人口集中地区（DID）に位置し、都市計画上の近隣商業地域に指定されている。また、伊勢神宮（内宮）の玄関口として国内外から多くの観光客が訪れる観光地となっている。このため、電線共同溝整備による無電柱化を行うことで、安全で快適な通行空間を確保するとともに、良好な都市景観の形成を図り、観光振興に寄与するものである。
- ・伊勢神宮では、20 年に一度、「式年遷宮」と呼ばれる祭事が執り行われる。式年遷宮は、社殿や御装束、神宝などを新たに造り替え、大御神に新宮へお遷りいただく神宮最大の祭事であり、飛鳥時代の西暦 690 年から続いている。
- ・三重県伊勢志摩地域、中南勢地域及び東紀州地域における公共事業では、式年遷宮が一つの節目として位置付けられており、本事業についても、令和 15 年に予定されている第 63 回伊勢神宮式年遷宮までの完成を目指し、鋭意事業を推進している。



3 市道高向小俣線（宮川橋）橋梁架替事業〔伊勢市〕

…………… 三重県伊勢市

- ・宮川橋は架設後 72 年が経過し、老朽化が著しく、幅員も狭いことから伊勢市の事業として現橋の下流に新橋の整備が計画されたが、宮川を渡河する橋長 648m の長大橋を設計・施工するためには高度な技術を要するため、市から依頼を受け、三重県にて受託事業として進めている。
- ・下部工は、逆 T 式橋台 2 基と張出式橋脚 10 基から成り、令和 7 年度末までに P1～P5 橋脚の 5 基が完成しており、現在は P6～P8 橋脚および A1 橋台を実施している。河川内に位置する P6～P8 橋脚では、大規模な仮締切を行った後、ニューマチックケーソン工法により施工している。
- ・今後、残りの橋脚、橋台、上部工を施工し、令和 13 年度中の完成を見込む。令和 15 年には伊勢神宮において 20 年に 1 度神宮を新しくする式年遷宮が行われることから、増大すると見込まれる観光客等への渋滞対策として、当該事業を推進する。

